

## 学 位 論 文 審 査 の 要 旨

学位申請者	<p style="text-align: center;">齊藤 幸子【論文博士】</p> <p style="text-align: center;">【比較社会文化学専攻 平成19年度生】</p> <p style="text-align: center;">(平成28年3月31日 単位修得退学)</p>	<p style="text-align: center;">要 旨</p> <p>中国の皇帝政治において、後継者として適切な人材を養成することは、王朝の存続にとって緊要な課題であった。本論文は、中国の皇帝支配体制が確立した漢代を対象として、皇帝の後継者である太子がいかに育成されたのかという問題を、太子教育を担った人々に焦点を当てて解明しようとした研究である。</p> <p>第一章では、太子認定の条件、立太子儀礼等について、第二章では皇子一般に対する後宮での幼年教育について概論した。第三章では、立太子後の教育内容として、諸種学芸のほかに礼容（姿かたちや立居振舞）の習得が重視されたことを指摘した。第四章以下が本論文の中心であり、第四章では、太子の教導責任者である太子二傳（太子太傅・太子少傅）への就任者を史書から網羅的に抽出してその任命方針や経歴・事績を検討し、第五章では、太子の警護や家政運営のために任じられる諸種官職の制度的検討及び任職者の事績の分析を行った。補論では、諸侯王国で皇子たちの教導を司った傳について論じた。</p> <p>漢代の太子教育に関する従来の研究は、制度的な概説或いは個別の事件に関する内容に止まっており、前漢・後漢を通じて制度と実態の両面から克明に検討した研究は本論文を以て嚆矢とする。本論文の特色は、太子・皇子教育を担った人々百余名を網羅的に抽出し、各人の事績を可能な限り検討することを通じて、漢代における太子教育や太子官属の実態を動態的に明らかにした点にある。例えば、前漢における太子二傳の任命方針が、人柄や実経験の重視から儒学の重視へと変化し、さらには古礼を規範とする急進的理想主義を唱える学者が任命されるに至ったといった指摘は、皇帝のあり方を考える上でも興味深いものである。『漢書』『後漢書』といった基本史料から記事を集めて考察するという本論文の方法は、オーソドックスであり、特に新奇なものではないが、労を惜しまぬ作業により、研究史上意義ある成果を得たものと評価できる。</p> <p>審査委員会では、実証性の高い力作と評価されたが、礼書の扱い方や先行研究との差別化等につき、若干の問題点が指摘された。著者は、これらの指摘に対応して丁寧な補充・改訂を行い、問題点は適切に解決されたと認められた。</p> <p>公開発表での応答も的確であり、著者の十分な知識と明確な観点を示すものであった。以上より、本審査委員会は、本論文を博士論文として十分な水準に達していると判断し、博士（人文科学）、Ph. D. in History の学位に相当するものと認めた。</p>
論文題目	太子教育を担った人々—漢代の太子官属を中心に—	
審査委員	(主査) 教授 岸本 美緒	
	教授 三浦 徹	
	教授 古瀬 奈津子	
	教授 伊藤 美重子	
	教授 和田 英信	
インターネット公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否（ 可 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 否 ）</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <div style="border-left: 2px solid black; border-right: 2px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p>イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p>オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> </div> <p>※ 本学学位規則第22条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	

